

# 令和5年度「生涯スポーツ振興のための調査」

## 公開用資料（結果・分析）

鹿児島県総合体育センター

# 令和5年度「生涯スポーツ振興のための調査」について

鹿児島県総合体育センター

## 1 調査の概要

### 【調査目的・ねらい】

県民のスポーツ活動等に関する実態やニーズを調査し、状況把握や分析を行い、今後の生涯スポーツの振興施策の基礎資料とする。

### 【調査項目】

- (1) 運動・スポーツへの関心について(「する」「みる」「ささえる」の観点から)
  - ア 各年代のスポーツ実施率
  - イ テレビ・ラジオのスポーツ番組視聴や実際に観戦したスポーツについて
  - ウ スポーツを支えるボランティアの育成について
- (2) 総合型地域スポーツクラブの認知率及び加入に対する意向について
- (3) その他(パラスポーツへの関心など)

### 【調査期間】

令和5年8月から11月

### 【調査対象】

令和4年度「市町村別、男女別人口及び世帯数、人口動態」に基づきサンプルとしての目標数を算出した上で、18歳以上の県民2,688人を対象とした。

調査対象の年齢区分については、「スポーツ振興かごしま基本方針」(平成23年7月策定)に準じて設定した。※ 表内数値は「回答数(目標数)」

区分	青年期	壮年期			高齢者
	18～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上
男	330(448)	135(149)	181(149)	146(150)	267(448)
女	335(448)	122(149)	151(149)	123(150)	271(448)
小計	665(896)	257(298)	332(298)	269(300)	538(896)
合計	2,062(2,688)				※ 76.7%

### 【調査方法】

- (1) 回答方法  
Webによる調査回答(選択式)
- (2) 依頼先  
関係市町村教育委員会教育長及び関係市長(社会体育担当主管課扱い)
- (3) 配布方法  
各市町村宛てに依頼文書を送付(web入力の説明入)

## 2 調査結果及び考察

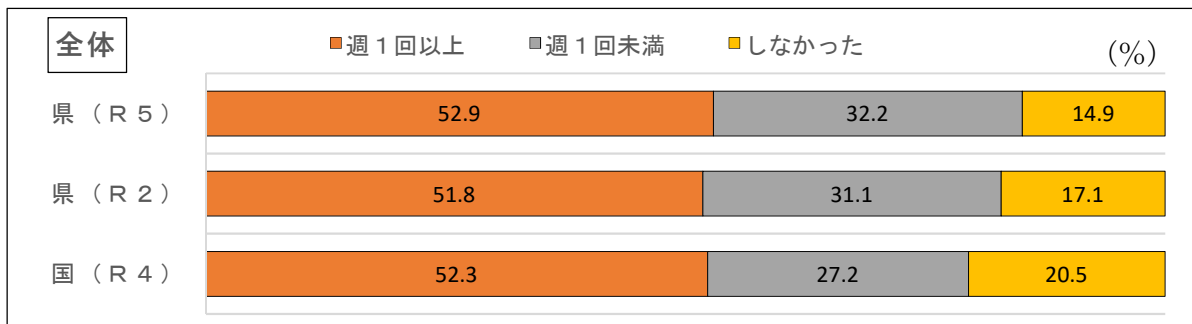
### 【週1回以上のスポーツ実施率の目標値】

- ・ 70%(県:第2期マイライフ・マイスポーツ運動 令和5～14年)

## 〈するスポーツ〉

問1 この1年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか。

### (1) 本県前回調査及び全国調査（※1）との比較（全体）



### 【比較結果】

#### （前回調査との比較）

- 「週1回以上」の実施率は、1.1ポイント上昇した。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、2.2ポイント減少した。

#### （全国調査（R4）との比較）

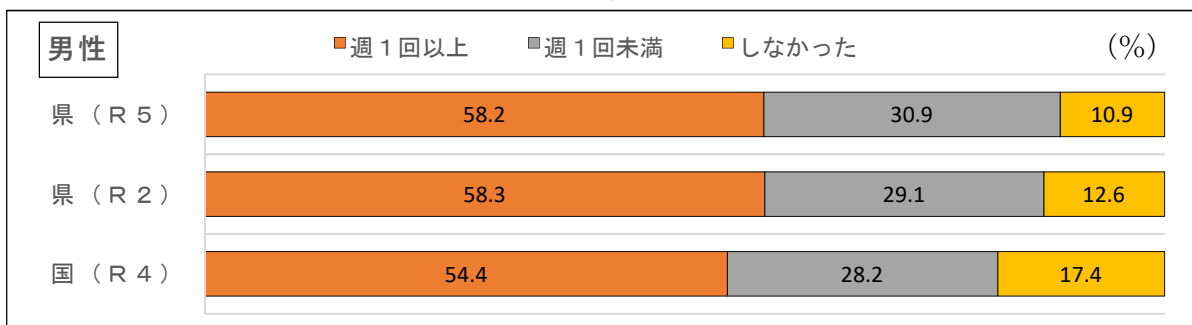
- 「週1回以上」の実施率は、0.6ポイント高かった。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、5.6ポイント低かった。

### 【考察】

週1回以上の実施率を前回（県）、国の調査結果と比較すると、実施した人の割合は上回っており、スポーツをしなかった人の割合が減っている。「第2期マイライフ・マイスポーツ運動」において、スポーツの捉え方を明確にし、幅を広げたことも上回った要因の一つと考える。

しかし、週1回以上の実施率は国や県の目標値（70%）に達しておらず、「仕事が忙しい」「めんどくさい」等の理由でスポーツをしない層があることから、今後、さらに関係団体や他部局と連携し、「第2期マイライフ・マイスポーツ運動」の具体的な取組を推進していく必要がある。

### (2) 本県前回調査及び全国調査との比較（男女別）



※1 全国調査・・・スポーツ庁が令和4年12月7日（水）～27日（火）に、18～79歳の男女（40,000件）にWEBアンケート調査で実施した「令和4年度『スポーツの実施状況等に関する世論調査』」

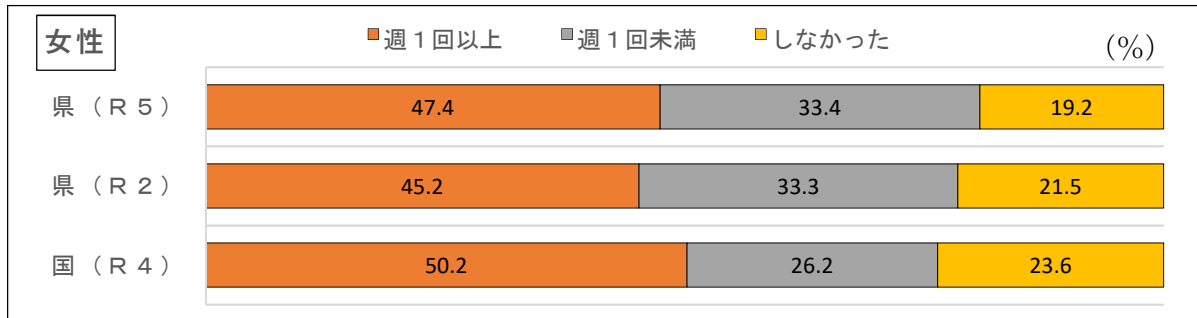
## 【比較結果】

### (前回調査との比較)

- △ 「週1回以上」の実施率は、0.1ポイント減少した。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、1.7ポイント減少した。

### (全国調査(R4)との比較)

- 「週1回以上」の実施率は、3.8ポイント高かった。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、6.5ポイント低かった。



## 【比較結果】

### (前回調査との比較)

- 「週1回以上」の実施率は、2.2ポイント上昇した。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、2.3ポイント減少した。

### (全国調査(R4)との比較)

- △ 「週1回以上」の実施率は、3.8ポイント低かった。
- スポーツを「しなかった人」の割合は、6.5ポイント低かった。

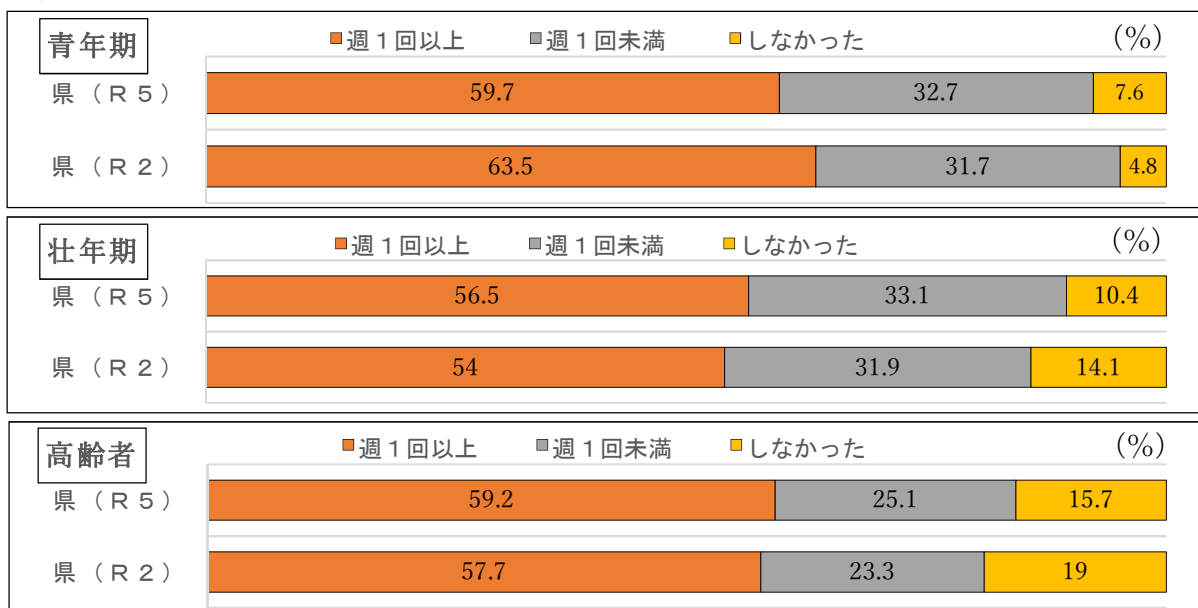
## 【考察】

男女ともにスポーツをしなかった人の割合が減ってきている。スポーツの実施に対する意識は高まりつつあると考えられる。

女性の「週1回以上」の実施率は、県の調査の割合より上昇しているが、国の割合より低い状況にあり、女性がスポーツに取り組める環境を市町村行政や総合型地域スポーツクラブ等と連携して作っていく必要がある。

### (3) 本県前回調査との比較(世代別)

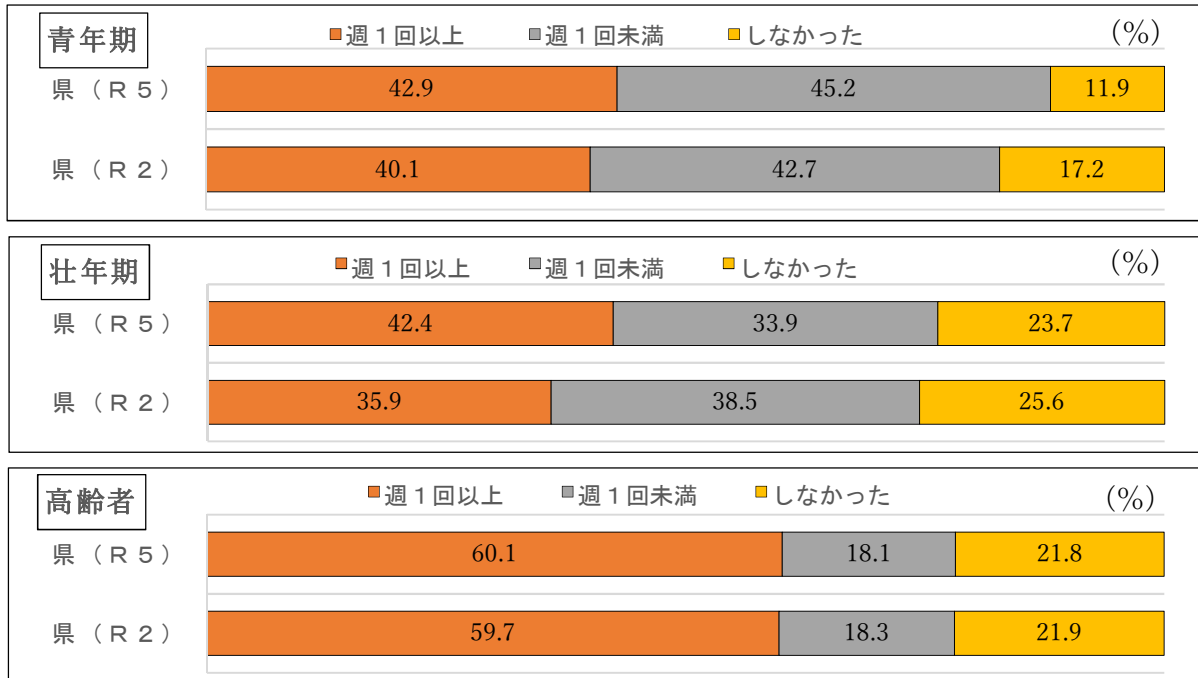
#### ア 男性



**【比較結果】**

- △ 青年期において、「週1回以上」の実施率は、減少した。
- △ 青年期において、「しなかった人」の割合は、上昇した。
- 壮年期及び高齢者において、「週1回以上」の実施率は、上昇した。
- 壮年期及び高齢者において、「しなかった人」の割合は、減少した。

**イ 女性**



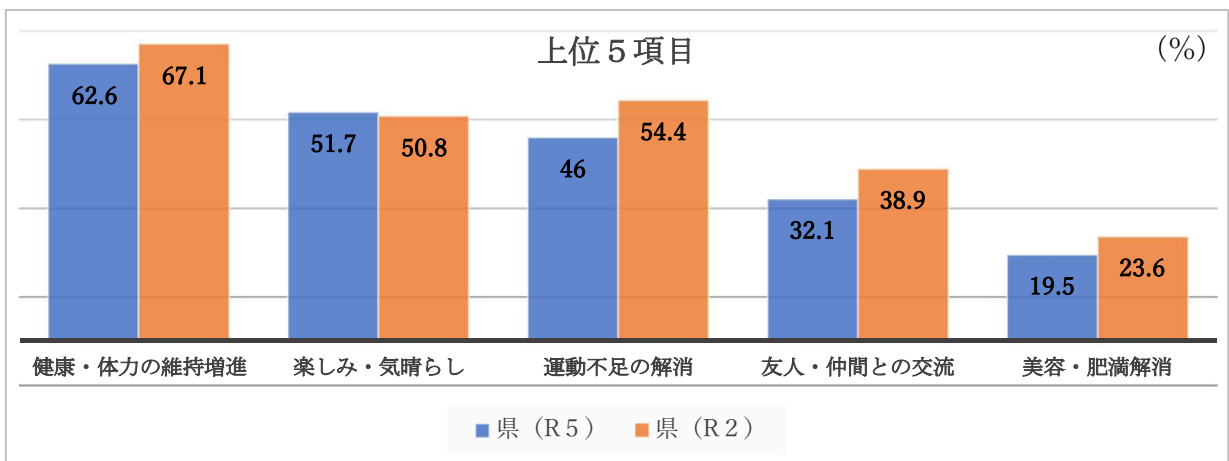
**【比較結果】**

- すべての世代において、「週1回以上」のスポーツ実施率は上昇した。
- すべての世代において、スポーツを「しなかった人」の割合は減少した。

**【考察】**

男性青年期以外の世代は、「週1回以上」のスポーツ実施率は上昇し、スポーツをしなかった人の割合が減ってきている。ほとんどの世代でスポーツの実施に対する意識は高まりつつあると考えられる。しかし、男性青年期は、前回の調査より落ち込みが見られる。その要因を探り改善を図る必要がある。

**問2 あなたが運動やスポーツを行う理由をお答えください。**  
(問1で「しなかった」以外を回答した者。複数回答)



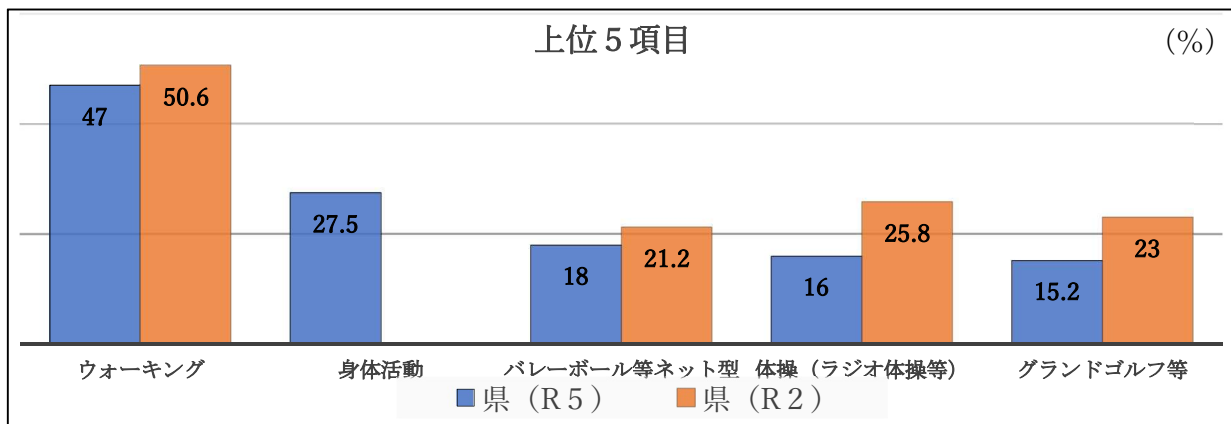
**【比較結果】**

- ・ 上位5項目は前回と同様であった。
- ・ 「楽しみ・気晴らし」が増加した。
- ・ 「健康・体力の維持増進」、「運動不足の解消」、「友人・仲間との交流」などは減少した。

**【考察】**

上位5項目は前回と変わりは見られない。その中で「楽しみ・気晴らし」だけが増加している。体の健康だけでなく、心の健康の重要性が増してきていると考えられる。

問3 この1年間に行った運動やスポーツをお答えください。  
 (問1で「しなかった」以外を回答した者。複数回答)



**【比較結果】**

- ・ 前回の上位になかった「身体活動」(※2)の項目が新たに選択された。
- ・ 4項目とも減少し、順位の入替えも見られた。

**【考察】**

上位にあった4項目がそれぞれ減少した理由は、身体活動を選択したことによるものと考えられる。また、順位の入替えは、友人・仲間とスポーツを行うことができるようになったことで、それに関連している種目が増加したと考えられる。

問4 この1年間に、運動やスポーツをできなかった理由をお答えください。  
 (問1で「しなかった」と回答した者。複数回答) ◇ 上位5項目

	R 5		R 2	
	1	仕事(家事等)が忙しい	60.1%	仕事(家事等)が忙しい
2	面倒くさい	29.9%	理由はない	25.8%
3	年を取った	27.3%	年を取った	23.0%
4	子供に手がかかる	17.5%	疲れる・面倒くさい	21.1%
5	病気やけがをしている	17.2%	スポーツが嫌い	19.6%

※2 身体活動・・・「第2期マイライフ・マイスポーツ運動」でスポーツを以下のように捉えている。

- ①余暇時間等における健康・体力の保持増進を目的とした身体活動(ウォーキング, 体操等)
- ②気晴らし, 楽しみ及び交流を目的とした身体活動(散歩, サイクリング, レクリエーション等)
- ③仕事や家事の最中の健康・体力の保持増進, 美容などを目的に意識的に実施する身体活動

### 【比較結果】

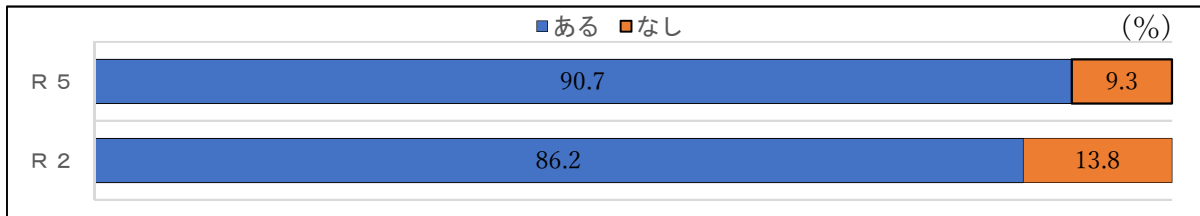
- ・ 「仕事（家事等）が忙しい」が9.5ポイント、「面倒くさい」が8.8ポイント、「年を取った」が4.3ポイント増加した。
- ・ 「理由はない」「スポーツが嫌い」の理由が上位からなくなり、「子供に手がかかる」「病気やけがをしている」が多く選択された。

### 【考察】

前回及び今回の調査でも「仕事（家事等）が忙しい」の項目が半数以上ある。仕事（家事）をする中にもできる身体活動があることを意識してもらうために、「第2期マイライフ・マイスポーツ運動」のスポーツのとらえ方をいろいろな場面で周知する必要がある。

### 〈みるスポーツ〉

問5 この1年間にスポーツを競技場などで観戦したり、テレビやラジオ、インターネットでスポーツ番組を視聴したりしたことがありますか。



### 【比較結果】

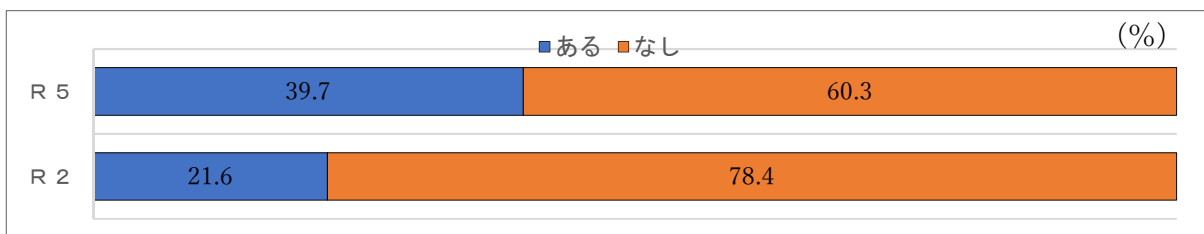
- 前回調査より、スポーツを観戦したり視聴したりしたことがある者が4.5ポイント増加した。

### 【考察】

スポーツを観戦したり視聴したりした者の割合が前回調査と同様に高い傾向にある。かごしま国体、かごしま大会をはじめとするスポーツソースの増加や鹿児島を拠点とするプロスポーツチームの活躍など、県民がスポーツに触れる機会が増えたことが要因として考えられる。

### 〈ささえるスポーツ〉

問6 この1年間に、スポーツの指導やスポーツ大会の運営など運動・スポーツに関するボランティア活動を行ったことがありますか。



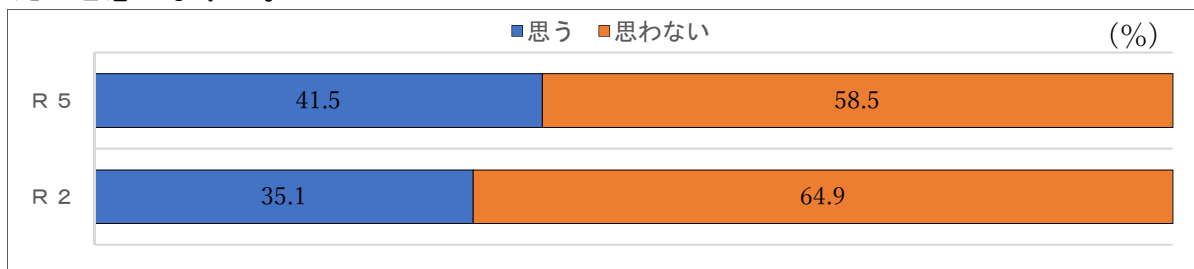
### 【比較結果】

- 前回調査より、ボランティア活動を行った者の割合が17.1ポイント増加した。

### 【考察】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の緩和により、かごしま国体を含め多くの大会が開催され、スポーツイベント等に係わる機会が増えたことが増加の要因として考えられる。

問7 機会があれば、運動やスポーツの指導者やスポーツボランティアとして活動してみたいと思いますか。



【比較結果】

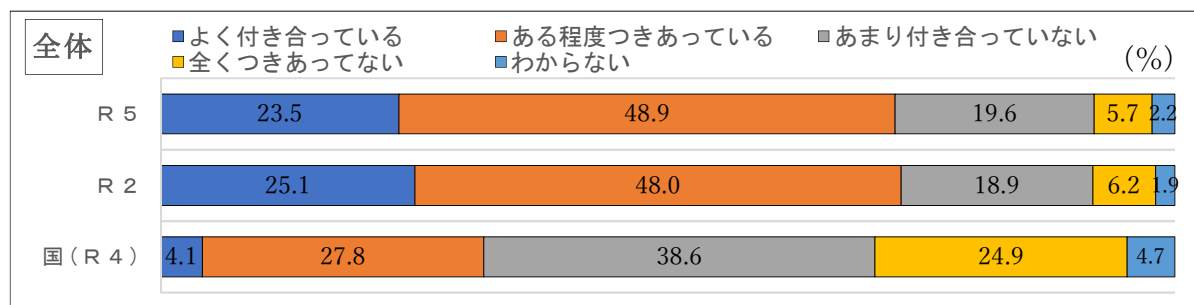
○ 前回調査より、「ボランティア活動をしてみたい」と回答した人の割合が6.4ポイント増加した。

【考察】

問6の考察と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の緩和により、かごしま国体を含め多くの大会が開催され、大会の観戦等を通して、スポーツのよさを感じたことが増加の要因として考えられる。

問8 地域との付き合いをどの程度していますか。

(1) 全体

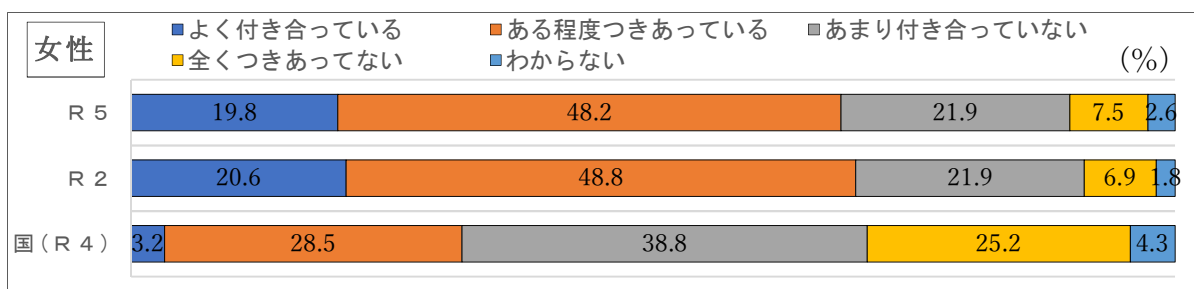
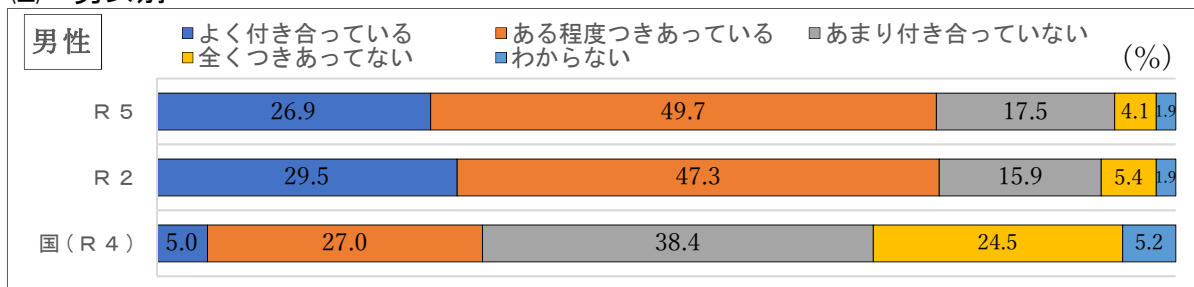


【比較結果】

△ 「よく付き合っている」「ある程度つきあっている」を合わせた割合(72.4%)は、前回調査(73.1%)より0.7ポイント減少した。

○ 「よく付き合っている」「ある程度つきあっている」を合わせた割合は、国の調査(31.9%)より40.5ポイント高かった。

(2) 男女別





### 【比較結果】

- △ 男女とも、「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」を合わせた割合（男性 76.6%，女性 68.0%）は、前回調査（男性 76.8%，女性 69.4%）より減少（男性 0.2 ポイント，女性 1.4 ポイント）した。
- 男女とも、「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」を合わせた割合は、国の調査（男性 32.0%，女性 31.7%）より高かった。（男性 44.6 ポイント，女性 36.3 ポイント）。

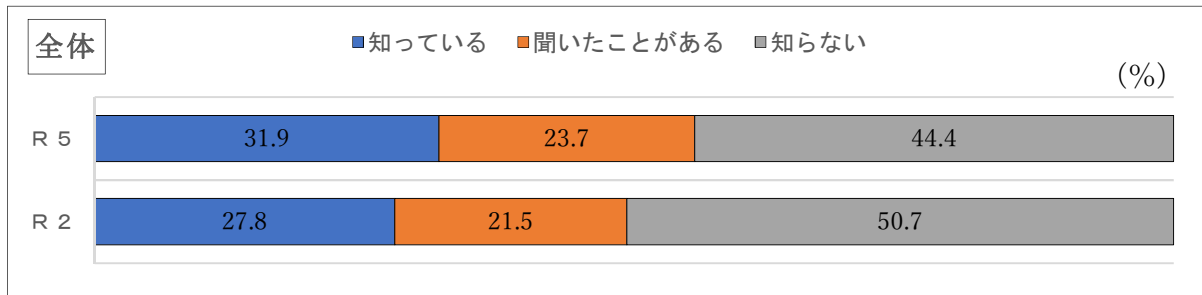
### 【考察】

前回調査よりも若干の減少は見られるが、ほぼ同じ割合であり、多くの方が地域との付き合いを大切にしていることがわかる。自治体（地域）や総合型地域スポーツクラブが主体となったスポーツ活動を推進することにより、さらにスポーツ実施率の向上が期待できるのではないかと考えられる。

### 〈総合型地域スポーツクラブ〉

問9 総合型地域スポーツクラブ（以下：総合型クラブ）について知っていますか。

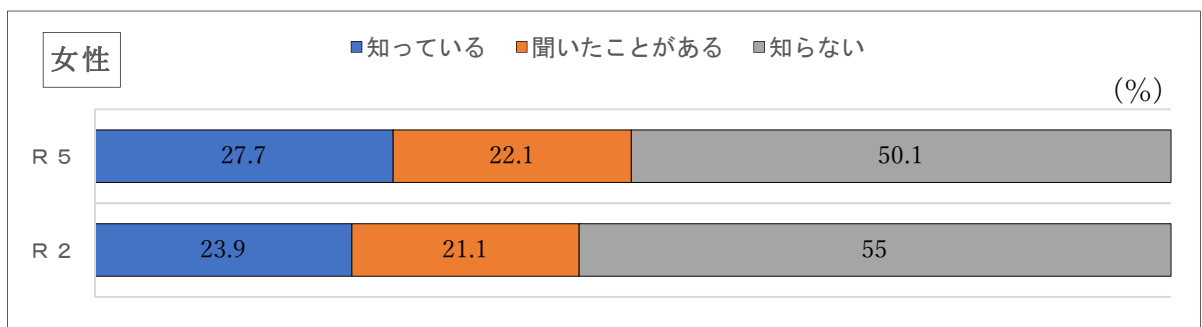
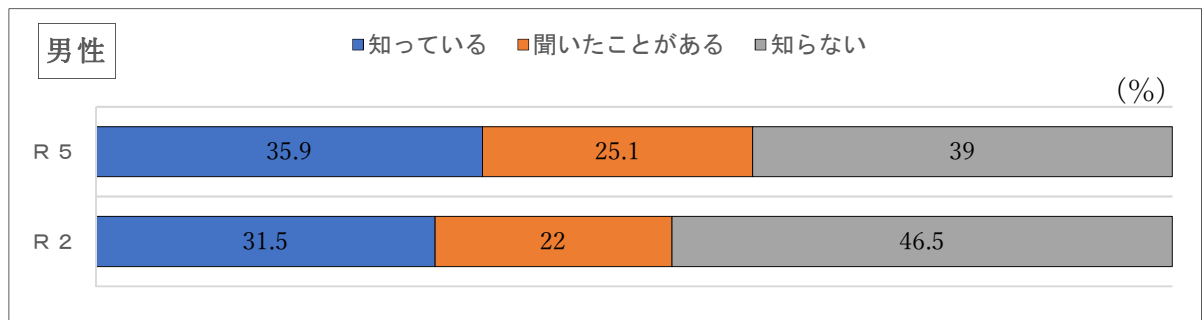
#### (1) 全体



### 【比較結果】

- 総合型クラブの認知度（「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合）は、前回調査と比較して 6.3 ポイント上昇した。

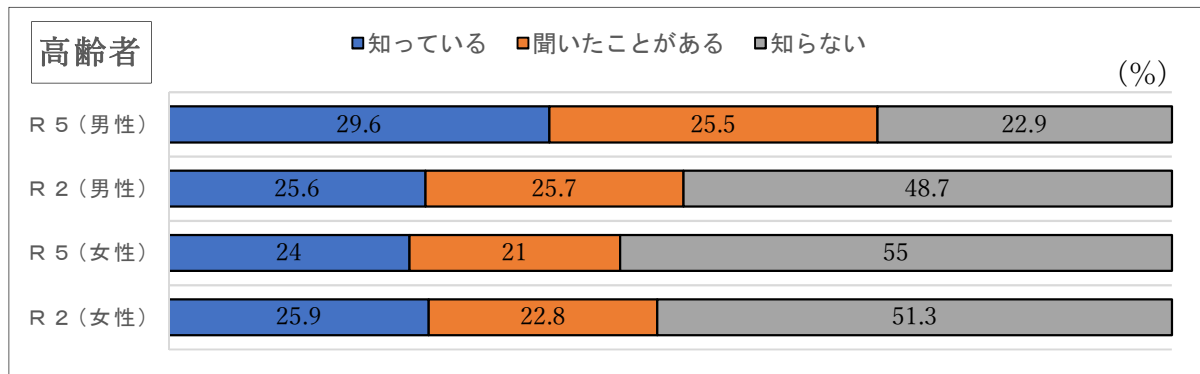
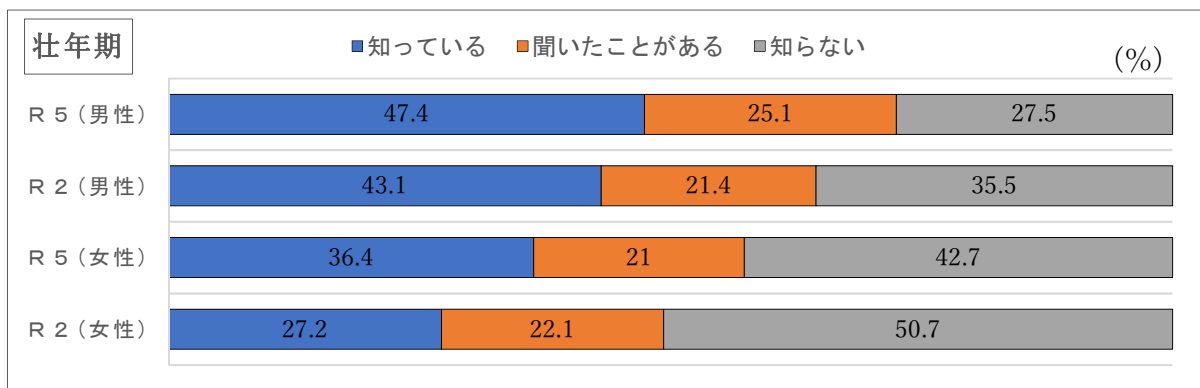
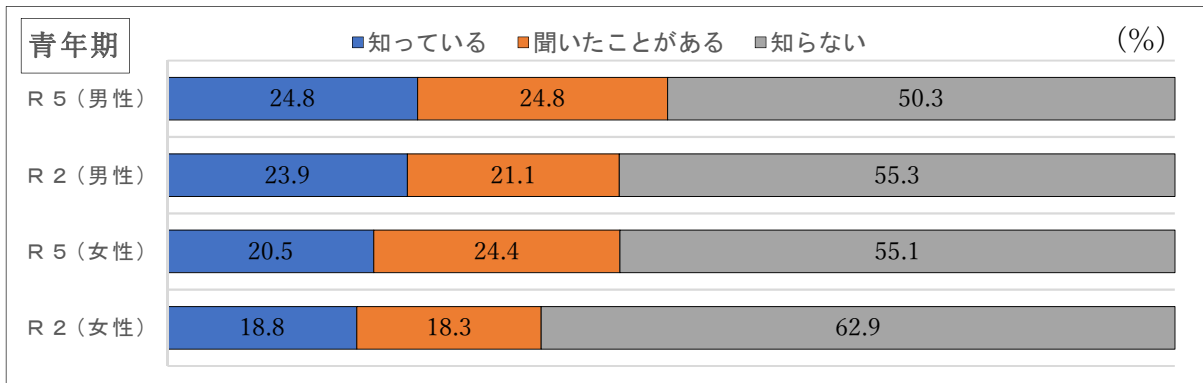
#### (2) 男女別



### 【比較結果】

- 男女別の認知度（「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合）は、男女とも前回調査と比較して上昇（男性：7.5ポイント、女性：4.8ポイント）した。

### (3) 世代別



### 【比較結果】

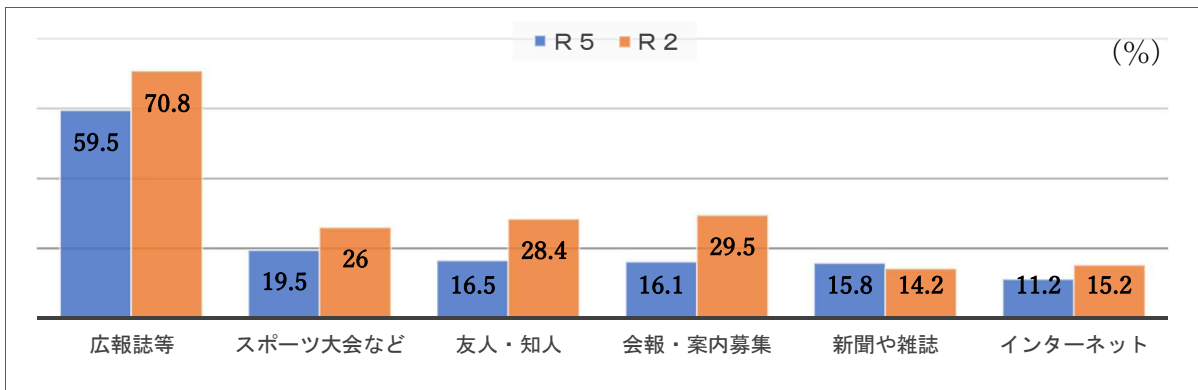
- 世代別の認知度は、高齢者の女性以外の世代において、前回調査と比較して上昇（青年期男性：5.0ポイント、青年期女性：7.8ポイント、壮年期男性：8.0ポイント、壮年期女性：8.1ポイント、高齢期男性：4.0ポイント）した。
- △ 青年期の認知度は、他の世代と比較して低かった。

### 【考察】

「全体」「男女別」「世代別」（高齢者女性除く）の全て項目において前回調査より上昇しており、各総合型クラブや各自治体の広報活動、部活動地域移行との関連等で、周知が広がりつつあると考えられる。スポーツに親しむ機会の拡充や地域スポーツの構築のために、総合型スポーツクラブや自治体と連携を図り、継続した広報活動を進め、認知度を高めていく必要がある。

問10 総合型地域クラブについて何で知りましたか。

(問9で「知っている」「聞いたことがある」と回答した者：複数回答)



【比較結果】

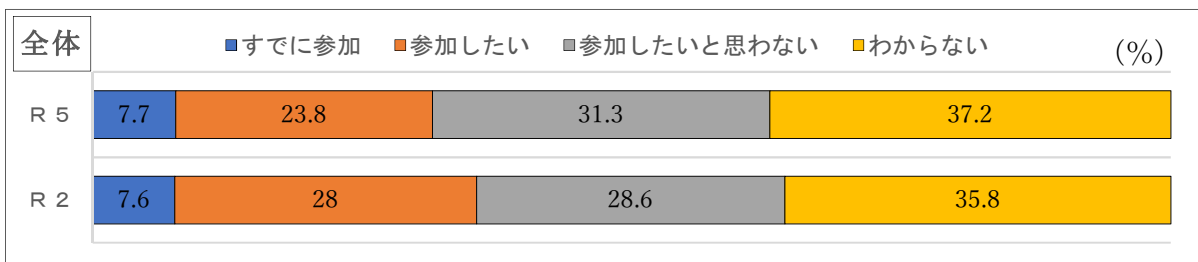
- ・ 「新聞や雑誌」が前回調査より上回ったが、それ以外の項目は下まわった。

【考察】

最も多かった認知手段が「広報誌等」であることと、前回調査より多かった認知手段が「新聞や雑誌等」であることから、紙媒体による広報が有効であると考えられる。また、現代のSNSの利用状況からSNSを活用した広報の方法も効果的であると考えられる。

問11 総合型地域スポーツクラブの活動に参加したいと思いますか。

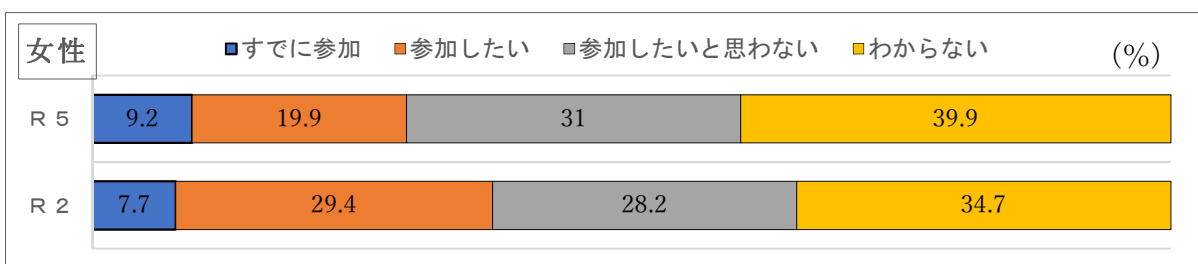
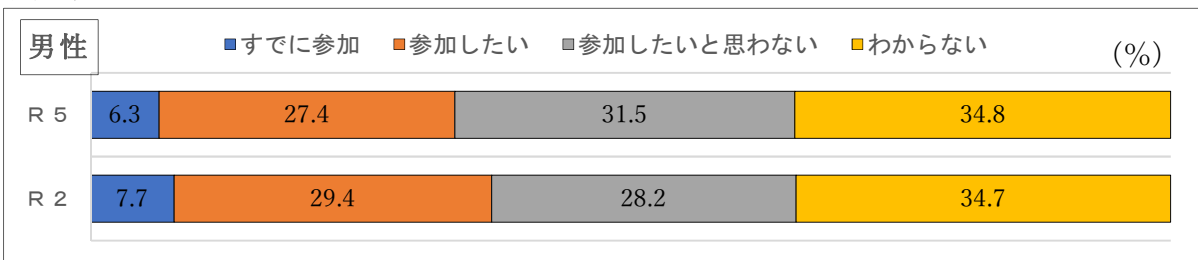
(1) 全体



【比較結果】

- △ 前回調査と比較して、「参加したい」の割合が4.2ポイント減少した。
- △ 前回調査と比較して、「参加したくない」の割合が2.7ポイント増加した。

(2) 男女別



### 【比較結果】

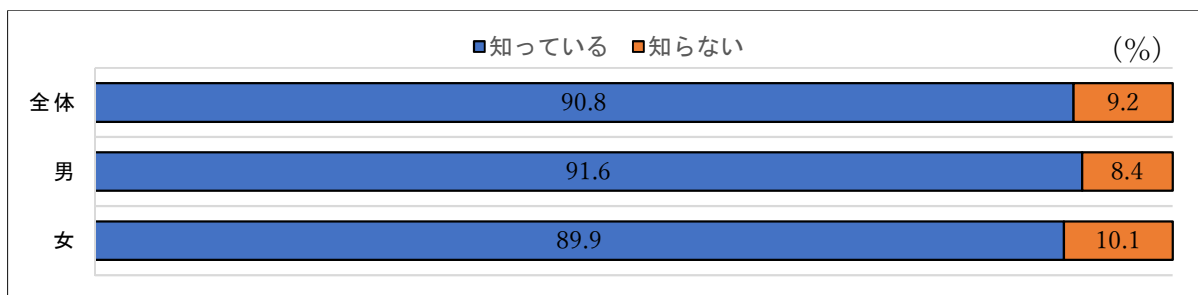
△ 男女とも「参加したい」と回答した割合が（男性：2.0ポイント，女性：9.5ポイント）減少し，「参加したくない」と回答した割合が（男性：3.3ポイント，女性：2.8ポイント）増加した。

### 【考察】

総合型地域スポーツクラブと市町村が連携して地域住民のスポーツニーズを的確に把握し，気軽に楽しく参加できるスポーツ・レクリエーション種目も含めたスポーツプログラムの開催など，ニーズに対応した取組を行うことで，参加意欲を高めることができるのではないかと考える。

### 〈パラスポーツ〉

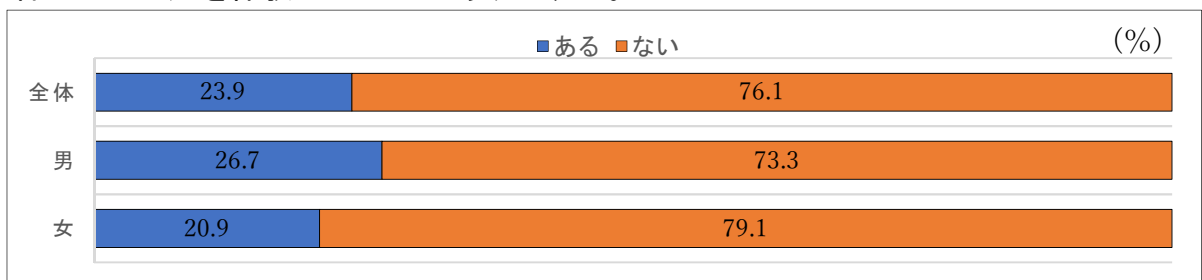
問12 あなたは，パラスポーツ（車いすテニスやボッチャ等の障害者スポーツ）を知っていますか。



### 【考察】

全体では，9割以上の者がパラスポーツを知っている。東京パラリンピックの開催等でパラスポーツに関することがメディアに取り上げられたり，身近でかごしま大会が開催されたりした影響があると考えられる。また，県主催のイベントやスポーツ推進委員等の研修会，教師を対象とした指導方法の研修等で障害者スポーツの体験していることが認知の高さの要因と考えられる。

問13 あなたは，これまで過去一度でもパラスポーツ（車いすテニスやボッチャ等の障害者スポーツ）を体験したことがありますか。



### 【考察】

パラスポーツについての認知度は高いが，実際に体験した者は，少ない。イベントや研修会等での体験は実施しているが，対象者が限定されていることやパラスポーツを行える環境（施設や用具，機会等）を知らないこと等が要因にあると考えられる。今後，自治体や関係団体と連携して，パラスポーツの体験イベント等の充実や障害者スポーツの用具の貸出しなどの周知を図り，パラスポーツに触れる機会を増やす必要がある。